

養父市立広谷小学校

令和7年度学校評価

(学校自己評価・学校関係者評価)

1 本年度の学校重点目標

ふるさととつながり、仲間とともに“在りたい未来”を創造する広谷っ子の育成

2 本年度の学校重点目標

めざす子ども像	○学ぶことのよろこびを知り、自ら学び続けようとする子 ○「がんばること」をよしとし、共に生きるよろこびを感じる子 ○元気な体と元気な心の大切さを知り、健康に生きようとする子
めざす学校像	“よろこび”を生み出す学校 ～明日がもっと楽しみになる場所～ ○「じりつ」のよろこび ○「協働」のよろこび ○「貢献」のよろこび ○「尊重」のよろこび ○「創造」のよろこび
めざす教職員像	○子どもへの愛情と教育への情熱にあふれた教職員 ○子どもの”のびしろ”を信じ、ともに学び続けようとする教職員 ○協働し、尊重し、高め合う教職員
重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ■生活に生きる書写学習 ■体幹を鍛え、心を磨く ■主体的に資質向上を図る教職員の育成 ■協動的な学びを生み出す授業づくり ■見る・きく・ふれる「ひ・る・た・に」力 ■ICTを活用した業務改善 ■新たな課題に対応した人権教育の推進 ■誰一人取り残さない教育の構築 ■地域人材と地域素材の積極的活用 ■学校間連携の強化

3 学校自己評価結果 (A:優れている B:良い C:おおむね良好 D:要改善)

分野	評価項目・取組内容	達成状況	学校の取組状況○・改善の方策●
(1) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ■“よろこび”を生み出す学校 ■「地域とともにある学校づくり(含コミュニティスクール)」の推進 ■チーム広谷の一員としての協働体制 ■時々の課題に対応した取組 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○支援学級児童も安心して活動ができるような計画を立て、実施することができた。 ○野菜栽培・販売によってコミュニティスクールを推進することができた。 ○課題を共有して、それぞれの教職員が課題や児童に自ら関わろうと働きかけて、協動的に動くことができた。 ○学校運営協議会と連携して、地域との交流を深められるように進めることができた。 ○不登校対策について、各関係機関とも連携しながら、組織的に対応できた。 ●不登校児童が昨年度より増加している。不登校児童に対してのアプローチ、教職員の連携強化や児童との個別面談等、未然防止に努める必要がある。 ●教室に入りにくかったり、適応しにくかったりする児童に対してうまく対応することができなかった。
(2) 予測困難な時代を生き抜く力を育む教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ■「確かな学力」の育成 <ul style="list-style-type: none"> ○児童の主体的・協動的な学びの充実 ○児童のコミュニケーション力、表現力の向上 ○学習タイム(チャレンジタイム)等による基礎・基本の定着 ○「生活に生きる書写学習」を推進した学習活動の充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○来年度の研究発表を目標に、講師を招聘し、全学年で取組をすすめ、書写の研究を推進することができた。 ○チャレンジタイムや書写の学習を通じて、毎日の連絡帳や授業ノートの字を丁寧に書ける等、生活に生かせる児童が増えた。 ○年間を通してチャレンジタイムで書写について取り組み、特に児童の「えんぴつの正しい持ち方」の意識を高めることができた。 ○書写の取組を通して、全体的に児童が落ち着いて授業が受けられている。 ●字を書くときにより姿勢が保てない児童がいる。書き始める際に毎回意識できるように声をかけていく必要がある。 ●今のチャレンジタイムのやり方では学力の基礎基本の定着は図れない。 ●低学年でも少人数指導ができるようにし、きめ細やかな指導を行っていくことが大切である。 ●教科指導において、主体的・協動的に学習できるように配慮したが、コミュニケーション力や表現力は期待したほど伸びていない。学年発表や学校行事等で表現する場を持ちたり、内容を工夫したりする必要がある。
	<ul style="list-style-type: none"> ■「豊かな心」の育成 <ul style="list-style-type: none"> ○新たな課題に対応した人権教育の推進 ○子どもの良さががんばりが認められる活動の促進 ○学級活動、児童会活動、異年齢集団活動の充実 ○いじめや不登校、問題行動等への適切な対応 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○人権教育で取り組んだ「こころんメーカー」が、様々なところで活用できた。更に活用したい。 ○特別支援学級では、個別の時間を確保し、様々な話をするように心がけることができた。 ○不登校児童に対して、個々に対策を立て、多くの教員が関わって対応できた。 ○いじめや問題行動が減少している。 ○問題行動や個別支援が求められるケースが起きたとき、先生方や保護者、外部機関の方とも連携しながら対応することができた。 ●下校後・地域でのトラブル・家庭でのネットのトラブル等、学校外の事案に対して対応しにくい。 ●いじめ問題に関して、丁寧に対応したつもりであったが、保護者との連携がうまくとれなかった事例もあった。 ●不登校傾向の児童に対する初期対応を迅速且つ丁寧にを行う必要がある。
	<ul style="list-style-type: none"> ■「健やかな体」の育成 <ul style="list-style-type: none"> ○子どもの体幹の鍛錬や体力や運動能力の向上 ○睡眠、排便、歯磨きなど、健康に関する指導の推進 ○教科や給食、栽培・調理などの体験等を通じた食育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○栄養教諭による学習や保健委員会の給食紹介の放送、学年による給食センターからのお便りの読み上げ等により、児童は食についての興味関心を持つことができた。また、4年生は計画的に栽培活動に取り組み、児童の食育への関心を高めることができた。 ○継続した体幹トレーニングにより、怪我が減少する等、効果が表れてきている。 ○継続した指導により、給食後にきちんと歯磨きをできる児童が増えた。 ●毎日チャレンジタイムで行う体幹トレーニングでは、同じ内容で飽きてしまい、なかなか進んでできない児童もいた。 ●休み時間に屋外で遊ぶ児童と室内で遊んでいる児童の二極化が見られる。
(3) 学びを支える仕組の確立	<ul style="list-style-type: none"> ■ふるさと意識を醸成するやぶ・ふるさとキャリア教育の推進 ■子どもが安心して、学校生活を送るための支援 ■安全点検、避難訓練など、児童の安全を守る取組 ■特別支援教育の理念に沿った誰一人取り残さない教育に向けた取組 ■養父校区小中一貫教育や広谷こども園との連携の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○常に事故を警戒し、安全な生活が送れるように留意することができた。 ○児童と園児の交流やこども園の先生との懇談を例年と比べて多くとることができた。 ○学校運営支援部会の取組として、校区カレンダーを通して、やぶ・ふるさとキャリア事業の各校の様子を発信し、共有することができた。 ●職員の避難訓練をする必要がある。 ●支援を要する児童の関わり方について、更に研修を重ね、対応の在り方を全員で学んでいきたい。 ●小中一貫教育の研修において、他小学校との先生との交流はあるが、中学校の先生との交流が少ない。また、児童理解や生徒指導・不登校等の情報共有に対して中学校との連携が十分ではない。 ●他校に比べ、不登校の児童が多く、児童が安心して、生き生きと学校生活を送ることができる支援が行えていたとは言えない。
(4) 家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ■地域の教材や人材を活用した学習の取組 ■PTA、学校運営協議会、ボランティアグループ等との連携の推進 ■オープンスクールや学校・学級通信の発行、ホームページ等を活用した学校オープン化の取組 ■家庭と連携した「そうあくんの日」の取組 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の方に来ていただいて、教育活動を進めることができた。 ○こども園との交流が、年間計画の中に位置づけられ、毎年、継続・更新されている。 ○町たんけんでは、広谷地区だけではなく浅野地区にも行くことができ、地域の方の話や見学を通して、児童が広谷校区について知ることができた。 ○ホームページの「広谷っ子ブログ」や通信を通して児童の日常を多くの方に知っていただくことができた。 ●学級通信が十分に発行できていない。 ●そうあくんの日を取り組みは家庭の力が大きい。また、そうあくんカードを見ていると「そうあくんの日」に関心をあまり持たれていない家庭が多いように感じる。
(5) 教職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ■教員としての資質や実践的指導力を高めるための研修の推進 ■体罰のない児童と心の通い合う温かい人間関係の構築 ■ICTを活用した会議や研修の効率化、情報や物品の整理など、業務改善の取組 ■超過勤務時間を縮減とワークライフバランスの実現 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○通信を電子化したり、学校行事の精選をしたりして、勤務時間を短縮することにつながった。 ○休暇の取得しやすい職場環境である。 ○各自で参加した研修の内容を報告し、共有し合うことで職員力を高めることができた。 ○iPadを用いることで、職員室のパソコンから直接資料をあげられるため、業務時間も削減でき、授業でも積極的にICTを用いることができた。 ○ICTの積極的導入・活用により、印刷に係る経費においても年々減ってきている。 ●ICT活用術など、毎年研修を受ける機会を増やさない時代に取り残されてしまう。 ●会議・研修を原則1時間で終わらせることを徹底させなければいけない。 ●超過勤務時間の縮減は、十分であったとは言えない。 ●学級通信の配信を学校全体で進めていく必要がある。

4 総合的な学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> ・授業も工夫され、子どもたちは落ち着いて過ごせている。 ・姿勢を良くするための体幹トレーニングや鉛筆の持ち方等、基本を大切に指導されている。それが落ち着きにつながっている。 ・職員研修などによりスキルアップを図り、iPadを用いた授業でICTの活用により成果を出されている。iPad等の利用については、利用方法を検証しながら推進されることをお願いしたい。 ・「学校重点目標」の達成に向けて、教職員の皆さんがいろいろと考え様々な取組をされていると感じた。特に、「ふるさととつながり」ということで、地域にまつわる学習や地域人材を活用した活動がよくでき、地域社会との連携、校外学習、地域行事への参加などを積極的にやっていると感じた。 ・「ホームページ」、「広谷っ子ブログ」がほぼ毎日更新され、全学年の様子がよく分かり、拝見するたびに、学校運営や教育環境が進化・充実していると感じた。 ・地域とのつながりは子どもたちだけでなく、地域の活性化にもつながるので今後も積極的に取り組んでいただきたい。 ・ICTで効率化された部分もあるが、教員の超過勤務をもっと減らさないといけないので、更なる改善が必要だ。 ・市内小中学校の統廃合が数年以内に実施されるようであるが、校区の広がり、地区の風土の違いへの対応、生徒増加等に向けての学校運営について早めの検討が必要と考える。
--

5 評価項目ごとの学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> ・地域や保護者の教職員への評価・評判は良かった。悪評はほとんど聞かなかった。また、保護者アンケートも昨年より良い結果が出ている。校長・教頭先生以下、良い人間関係のもと学校運営がされていると感じた。 ・自分たちが育てた野菜を購入してもらえ喜びが感じられる学習は生きた教育だと思う。 ・学ぶ場が当たり前を意識され、子どもたちは受け身的になりやすい。難しいことだが、自主的に学ぶとすると場づくりが重要だと思う。 ・コミュニティスクールの推進のため「広谷っ子育て隊」の募集や地域の方、学校運営協議会や校区自治協議会と連携して今後とも継続、推進されたい。 ・不登校児童と支援学級児童が増えており、学校運営が毎年難しくなっている中、先生方の連携や該当生徒への対応はよくできていたと感じた。不登校が増えている点はこれからの課題であり、保護者と現状を共有し、連携しながら取り組んでいかなければいけない。
<ul style="list-style-type: none"> ・来年度の研究発表の書写の研究について、講師を招聘し、全学年で取り組みを進め書写の研究を推進したことで、正しい鉛筆の持ち方や字を書く時の正しい姿勢を意識させる、字のバランスや間隔を考えさせる等、貴重な体験となっているので引き続き推進されたい。 ・AIの力が人間がうまく活用していく必要がある。しかし、「考える」能力の低下が心配である。 ・PC・タブレットを使った学習やオンライン学習が日々進化し、一層その必要性が増している。子ども達の話や授業参観で見せてもらうとよく頑張っていると感じた。勉強する子ども達も、教える側もよりレベルをあげる必要がある。 ・一昨年はタブレットを自宅に持ち帰り、休校時や夏休み等は自宅学習に活用していたようであるが、最近は見かけない気がする。有効性を検証し、必要であれば活用するのが望ましいと考える。 ・基礎学力の定着に関して、課題が指摘されており、少人数指導も検討されている。まずは、教員の確保を市教委へ働きかけていくことが大切だ。
<ul style="list-style-type: none"> ・いじめや問題行動が減少しているのは、人権教育の成果もあると思う。 ・相手の気持ちを思いやる心が育まれており、それに伴って子どもの言葉遣いが良くなっている。 ・思いやりのある温かい学校づくりと、いじめなど人権課題に対応できる子どもの育成は、人格形成において大事なことなので、引き続き推進されたい。 ・SNSに起因するトラブル等も発生している。PTA教育講演会を活用しSNSの取り扱いについて家庭と連携した取組がなされており、引き続きお願いしたい。 ・学校へ求める役割が大きすぎるように思う。家庭の中においても子どもへの働きかけはもっと必要である。双方が協力する関係づくりができればよい。
<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間に屋外で元気に遊ぶ児童が多いという広谷小の風土が今後も根付くと良い。 ・継続した体幹トレーニングにより怪我が減少する等効果も出ているので、今後も取り組みをお願いしたい。 ・給食センターからのお便りや、栄養のことだけでなく、昔からの言い伝えなども紹介され、子どもが興味を持っている。 ・継続した指導により、給食後にきちんと歯みがきができる児童が増えたことは、健康を維持する歯を守る大事な取り組みなので、引き続き取り組みをお願いしたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・やぶ・ふるさとキャリア教育を通して、学校の中だけでなく、地域を巻き込み、地域全体の活性化につながればよいと思う。 ・幼児センターや中学校との交流にしっかり取り組んでいる。あわせて、養父小、建屋小との交流に6年生を更に密にできればよい。 ・子どもがトラブルに巻き込まれたときに、ていねいに話を聞くなど、迅速に対応している。今後も子どもたちが何でも相談できるシステム・体制づくりには常に取り組みでいただきたい。 ・不登校が増えているので、様々な課題の共通理解を図り、個別の支援を要する児童への対応について、各関係者や関係機関と連携しながら推進していただきたい。 ・いじめや体罰等の大きな人権問題や児童同士のトラブルはほとんど聞こえてこない。思いやりのある学校づくりができています。
<ul style="list-style-type: none"> ・今回新たに町たんけんや広谷地区だけでなく浅野地区に出かけ、広谷校区全体を知り、交流する取り組みをしたことは、児童だけでなく、地域の方にとっても大事なことで、引き続き継続していただきたい。 ・地域の祭りや行事に子どもたちが積極的に参加してくれた。特に「広谷観音祭」には、お囃子の練習や「造り物」の制作等、地域を大いに盛り上げてくれ、地区の評価も上々であった。 ・「ホームページ」、「広谷っ子ブログ」により地域への情報提供に努めており、校区の全家庭へ情報提供できている。 ・児童のあいさつが前に比べると元気がなく、子供らしく大きな声であいさつをしてほしい。 ・登下校の安全確保や校内施設安全点検等、機会ある毎に危険箇所や安全上の問題点について情報交換することが必要と感じた。 ・そうあくんの日取組に温度差があるような気がする。保護者と学校が共通理解の上、同歩調で進んでいけるようにしていかなければいけない。
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な研修や会議で、教師の指導力を高める成果を出されているので、引き続き推進されたい。 ・ICTで事務作業や教師の仕事が効率化されたのは良い。今後も取り組みを進めていただきたい。 ・休暇が取得しやすい環境であるという点、そのような雰囲気も維持していただきたい。 ・勤務時間の適正化により教職員のワークライフバランスを充実させることは、子どもと向き合う時間を確保するために必要である。勤務時間縮減のためのiPadやICTの活用により引き続き勤務時間縮減の取り組みを推進していただきたい。 ・教職員の負担増、希望者の著しい減少、勤務時間の問題等の情報に接するたびに、そのご苦労をお察しする。勤務時間の適正化に努めていただき、無理をせず余裕をもって教育に携わっていただきたい。 ・オンライン授業やタブレットによる指導など、次々に新しいことを取り入れていかなければならず、先生方は大変だ。業務改善に努めて、健康第一で勤務していただくことを望む。